

NGO 外務省定期協議会 09 年度連携推進委員会の振り返り

連携推進委員会

座長 大橋正明（JANIC 理事長）

<連携推進委員会の中期目標>

連携事例や協議のあり方に関して相互理解を深め、今後のパートナーシップのあり方について相互理解を形成し、NGO と外務省の双方が合意する。

<09 年度の全体的な振り返り>

NGO と外務省の連携のあり方に関して相互理解が深まり、良好な関係の構築に向けて前進することができた。さらに、政務三役が連携推進委員会に出席するなどハイレベルな政策決定者との会合も実現した。

しかしながら、NGO と外務省のパートナーシップのあり方に関するイメージの共有や、概念整理をすることはできなかった。

また、国際協力に関する有識者会議、ODA 評価有識者会議などがなくなったことにより、NGO が ODA の政策決定の場に公式に関与する機会が減少したことは憂慮すべき課題である。NGO と外務省のより成熟したパートナーシップの構築のために、NGO が ODA の政策決定の場に公式に関与するチャンネルを継続してつくっていただくことを要望したい。

2. 09 年度の目標と振り返り：

年に 3 回開催される NGO 外務省定期協議会、およびタスクフォースの設置や勉強会等の活動を通じて連携推進委員会の活動を行った。以下、各目標に対する振り返りである。

<目標 1>

他国の ODA 関係機関と NGO／市民社会の関係性を学び、日本の NGO と政府の連携のあり方について議論する。

<振り返り>

連携推進委員会の枠組みで他国の事例を学ぶ機会を持つことはできなかった。

<目標 2>

「NGO との戦略的連携にむけた 5 ヶ年計画」を、5 ヶ年計画推進チームを中心として推進し、5 ヶ年計画の進捗状況や成果と課題について議論する。

<振り返り>

ほぼ達成できた。タスクチームとして「5 ヶ年計画推進チーム」を立ち上げ、5 ヶ年計画の進捗状況についてモニタリングするとともに、必要に応じて勉強会や意見交換会を随時開催した。ただし、今後 5 ヶ年計画がどのように取り扱われるかについては、十分に議論ができていない。

<目標 3>

日本 NGO 連携無償資金協力の改善に向けて NGO が積極的な関与ができるよう、外務省との意見交換の場を設定する。

<振り返り>

ほぼ達成できた。N 連に関する意見交換会の場を通じて、N 連の改善に向けて NGO が積極的に関与した。ただし、N 連の重点課題の設定については十分な議論ができなかった。

<目標 4>

環境整備事業の改善に向けて、NGO が積極的な関与ができるよう、外務省との意見交換の場を設定する。特に、地域の NGO が裨益する環境整備事業のあり方を NGO 側として提案するとともに、地域の NGO と外務省の連携のあり方について議論する。

<振り返り>

十分な議論はできなかった。NGO を対象に、環境整備事業に関するアンケートを行ったものの新規プログラムの「NGO インターン・プログラム」については十分な議論を行わなかった。また、地域の NGO と外務省の連携のあり方についても十分な議論は行われなかった。

<目標 5>

ODA において、NGO がその専門性を活かしてどのように貢献していくかについて検討する。様々な NGO が、日本 NGO 連携無償資金協力のみならず、コミュニティ開発支援無償資金協力や、草の根・人間の安全保障支援無償資金協力等他のスキームを利用できるようにするために外務省と意見交換を行う。

<振り返り>

検討は進んだ。ただしコミュニティ開発支援無償については、数回勉強会を行ったものの NGO の参画は進んでいない。草の根・人間の安全保障支援無償については、同スキームの改善のために日本の NGO が協力する方向で議論を進めることができた。

以上